様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2019
課題番号：２６３７０２２１

研究課題名（和文）『石清水物語』諸伝本に関する本文研究及び校本作成

研究課題名（英文）The bibliographical research and making the compilation of varying texts of Iwashimizu Monogatari

研究代表者
宮崎　裕子（MIYAZAKI, Yuko）

九州産業大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：４０５８１５３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、『石清水物語』の伝本に関する書誌調査及び本文研究を実施し、諸本を校合した校本の作成を目指すものであった。
　研究期間内に得られた主な成果は、最も伝本数が多い第三系統の善本（原態に最も近い本）は本居宣長記念館蔵本と考えられていたが、実際の善本は石水博物館蔵本であると明らかにしたこと、第二系統から派生したと見なされていた第三系統の祖本が、実は第一系統に属する静嘉堂文庫蔵本に近い伝本であると判明したこと、これらの調査結果を踏まえて作成した校本（『校本石清水物語』新典社、2020年3月）を刊行したことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　助詞１字の相違が本文の解釈を左右する可能性もある以上、諸伝本を校合した本文批判とそれに基づく校本の作成は、古典文学研究における基礎的研究として必須のものであるはずだが、『石清水物語』が属する「中世王朝物語」という分野に関しては、基礎研究がさほど進んでおらず、校本が刊行されていない作品も多い。
　したがって、『石清水物語』諸伝本を校合した校本の作成は、立ち後れている中世王朝物語の基礎的研究を推進させるという点で大きな意義を持ち、また、同物語に関する研究にも大きく寄与することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aims to research on the manuscript copies of Iwashimizu Monogatari and make the compilation of varying texts of that. The results of this study are shown below.
(1) The bibliographically best text of the manuscript copies of Iwashimizu Monogatari which belong to the third genealogy is owned by Sekisui Museum. (2) The manuscript copies of Iwashimizu Monogatari which belong to the third genealogy was derived from the book which belong to the first genealogy. (3) Published the compilation of varying texts of Iwashimizu Monogatari.

研究分野：人文学

キーワード：書誌学　文献学　校本　石清水物語　中世王朝物語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)『石清水物語』について

鎌倉時代の成立と推定される『石清水物語』は、「擬古物語」あるいは「中世王朝物語」と呼ばれるジャンルに属する作り物語である。王朝物語には珍しく東国で生まれ育った武士が主人公であり、武家の信奉を集めた石清水八幡宮の神託が物語を動かす契機として大きな意味を持っている。

(2)「中世王朝物語研究」の現在

鎌倉期から室町期にかけて作られ続けた作り物語は、『源氏物語』『夜の寝覚』『狭衣物語』といった古典の模倣に過ぎない亜流作と見なされて「擬古物語」と呼ばれていた。しかし、近年、その価値を積極的に評価しようという気運が高まり、「中世王朝物語」との呼称が提唱され、「擬古物語」と貶められてきた作品たちに前代の模倣にとどまらない独自性を見出し、「中世王朝物語」としての評価を確立することに力が注がれてきた。その成果は徐々に顕れ、中世王朝物語を研究対象とする研究者の裾野が広がり、関連する論攷も年々増えつつある。

その一方で、「中世王朝物語研究」という分野においては、対象とする作品の真価を問い直し、そこに新たな価値を見出すことに重点を置く余り、本文批判・本文解釈といった基礎的作業が手薄なまま放置されてきた感がある。中世王朝物語が長年に亘り、その価値を論ずる必要もないとされるほど軽視されてきたという事情に鑑みれば、それも仕方のないことと言えようが、本文の不審箇所を正すために必要不可欠である基礎研究を疎かにしたままの作品研究は、ともすれば実証性を欠くものとなる恐れがあり、「中世王朝物語研究」が「人文科学」として成り立たなくなる危険性を孕んでいる。「中世王朝物語研究」を一過性のブームに終わらせることなく、更なる発展へと飛躍させるために、「中世王朝物語研究」という分野が確立されつつある今こそ、古典文学研究の原点に立ち戻り、基礎的研究の充実を図ることが必要なのである。

(3)中世王朝物語の本文研究

古典文学の基礎的研究として、諸伝本を校合した上での本文批判は必須であるはずだが、そもそも中世王朝物語には伝本の稀なものが多く、孤本の『在明の別』『風に紅葉』、残欠本が伝わるのみの『風につれなき』『雫ににごる』など、他本との校合が不可能な作品も少なからず存在する。

その中で『石清水物語』に 20 を超える伝本が現存するのは僥倖とも言うべきことであるが、諸伝本の校合が為されていない現状では、その幸運を十二分に活かしているとは言い難い。

前に名を挙げた『源氏物語』『夜の寝覚』といった平安朝の作品であれば、すでに校本や諸本集成の類が充実しているため、本文に疑問がある場合も比較的容易に諸本の異同を確認できる。それに比して、中世王朝物語の場合、『とりかへばや』『しのびね』『我身にたどる姫君』などの校本がすでに刊行されてはいるものの、未だそうした基礎的な本文研究が行われていない作品が多く、「中世王朝物語研究」は、立ち後れている基礎的研究を充実させ、まずその環境を平安朝物語研究の水準にまで引き上げる必要がある。

(4)『石清水物語』の伝本

『石清水物語』には近世期以降に書写された二十数本に及ぶ写本が伝わっており、それらが四つの系統に分類されたのは桑原博史氏の調査による（同氏著『中世物語の基礎的研究 資料と史的考察』風間書房、1969 年）。その分類に従って、近世期に成立したと推定される 26 本の伝本を以下に列挙する。

【第一系統】静嘉堂文庫蔵本・新潟大学附属図書館佐野文庫蔵本・岡山大学附属図書館池田家文庫蔵本・飛騨高山まちの博物館蔵本・尊経閣文庫蔵本・名古屋市蓬左文庫蔵本・大阪府立中之島図書館蔵本・京都大学文学研究科蔵本

【第二系統】神宮文庫蔵本・内閣文庫蔵一冊本・彰考館文庫蔵本

【第三系統】（第三系統一～五類は、研究代表者の調査結果による分類。）

［一類］本居宣長記念館蔵本・射和文庫蔵本・国立国会図書館蔵本・東京大学文学部国文学研究室蔵本・刈谷市立中央図書館村上文庫蔵本・無窮會図書館蔵本・大阪府立中之島図書館蔵本

［二類］筑波大学附属図書館蔵箱入り本

［三類］金沢大学附属図書館蔵本・筑波大学附属図書館蔵本・内閣文庫蔵本

［四類］石水博物館蔵本・竹柏園旧蔵本

［五類］国文学研究資料館鵜飼文庫蔵零本

【第四系統】天理大学附属天理図書館蔵本

２．研究の目的

本研究は、４系統に分類される『石清水物語』の諸伝本を校合した網羅的な校本の作成を最終目標とするものである。

研究代表者は、科学研究費助成事業若手研究（B）「『石清水物語』第三系統諸伝本に関する本文研究及び校本作成」（研究課題番号 23720111、2011～2013 年度）において、４系統中最も伝本の数が多い第三系統諸伝本の校本を刊行しており（『岩清水物語の研究―第三系統伝本の校本

と影印―』、新典社、2014 年)、その成果を更に発展させ、全系統に属する『石清水物語』諸伝本を対象にした校本の作成を目指した。

３．研究の方法

(1)書誌調査

諸伝本の関係を明らかにして、校本の底本となり得る伝本を特定するめには、各本の配字配行、仮名の字母、注記の内容などを精査して転写の過程を辿る必要がある。それゆえ、複写物では確認のできない、文字の修正箇所（誤写した文字を削って書き直した箇所、重ね書きによる修正など)、朱書された注記の有無などの調査が不可欠である。第三系統伝本の書誌調査は、新出資料の国文学研究資料館鵜飼文庫蔵零本を除き、2013 年度までに済ませており（研究課題番号 23720111)、本研究では、主に閲覧を許可された第一・二・四系統に属する 9 本について調査を行った。

(2)校本作成

まず、各本の本文・注記を翻字して電子テキストを作成した。

諸本の電子テキストを校合した校本は、「古典籍の保存・継承のための画像・テキストデータベースの構築と日本文化の歴史的研究」（JSPS 科研費 JP16K00469・同志社大学人文科学研究所第 19 期研究会第 4 研究会、研究代表者：福田智子氏）において開発された「校本作成ツール」の提供を受けて作成した。

４．研究成果

(1)伝本に関する研究

『石清水物語』諸伝本の本文を比較検討した結果、第一・二・四系統伝本に関する次の事柄が判明した。なお、第三系統伝本の調査結果については、(2)に述べる。

①第一系統

a)静嘉堂文庫蔵本と新潟大学附属図書館佐野文庫蔵本（以下「佐野文庫蔵本」）の本文は酷似しており、配字配行まで一致している。使用された仮名の字母が異なる箇所もあり、直接の書写関係の有無は明らかではないが、少なくとも、両本は共通の祖本を忠実に書写して成立したものと考えられ、ともに透写本の可能性を窺わせる書体である。

b)岡山大学附属図書館池田家文庫蔵本と「とりかへはや」と書名を誤って伝えられている飛騨高山まちの博物館蔵本は、特に近しい関係にあると考えられ、配字配行及び字母の一致率が極めて高くなっている箇所も多く、両本のみに共通する誤脱、独自異文なども存在する。

②第二系統

『石清水物語』の諸伝本を分類した桑原氏が、第一系統と第二系統を分別した根拠は本文の分割形態の相違であり、いわば外見による系統立てであった（桑原氏前掲書)。本研究において、改めて第二系統に属する神宮文庫蔵本・内閣文庫蔵一冊本の本文を他系統と比較したところ、両本のみに共通する誤脱や独自異文の存在により、第二系統伝本の本文は内容的にも他系統と異なる部分を有することが判明した。

③第四系統

この系統に分類されるのは、天理大学附属天理図書館蔵本のみである。同本には他の伝本に比して脱文がかなり多いものの、本来の文章を独自に簡略化したと覚しき箇所もあるため、単なる誤脱ではなく、意図的な削除・改変がなされた部分が含まれる可能性も否定できない。

(2)校本作成―底本及び校合本の選定―

四つの系統の中で伝本数が最も多く、流布本とも言うべき第三系統伝本は、第二系統から派生したものと位置付けられていたが(桑原氏前掲書)、第三系統伝本の本文を他系統に属する伝本のそれと詳細に比較したところ、第三系統の祖本について、次のことが判明した。

①第三系統に近い本文を持つのは第一系統に属する静嘉堂文庫蔵本・佐野文庫蔵本で、両本の中でも静嘉堂文庫蔵本の本文の方が、第三系統により近似している。ただし、第三系統伝本の本文には、静嘉堂文庫蔵本・佐野文庫蔵本よりも、第一系統に属する他の伝本に近い箇所も存在するため、第三系統の祖本は、静嘉堂文庫蔵本そのものではなく、同本や佐野文庫蔵本と関わりの深い伝本の一つであったと想定される。

②第三系統伝本は、本居宣長記念館蔵本と同本を経て成立した一・二・三・五類本、石水博物館蔵本とその転写本からなる四類本の二つに大別され、本居宣長記念館蔵本よりも、石水博物館蔵本の方が祖本に連なる静嘉堂文庫蔵本に近い本文を有する。

これらの検証結果を踏まえ、最も伝本数が多い第三系統の祖本に近く、かつ誤脱の少ない本文を持つ静嘉堂文庫蔵本を『石清水物語』校本の底本に定め、第三系統からは同系統の主要伝本である本居宣長記念館蔵本・石水博物館蔵本の二本を校合本として選出した。

さらに、校合本には、第一系統から名古屋市蓬左文庫蔵本の転写本と考えられる大阪府立中之島図書館蔵本を除く六本、第二系統から内閣文庫蔵一冊本の転写本と考えられる彰考館文庫蔵本を除く二本を採用し、第四系統の天理大学附属天理図書館蔵本も加えて校本を作成した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 宮﨑裕子	４．巻 122
２．論文標題 『石清水物語』第三系統伝本の成立に関する一考察―附・石水博物館蔵本の位置付け―	５．発行年 2016年
３．雑誌名 語文研究	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 宮﨑裕子
２．発表標題 『石清水物語』の善本について
３．学会等名 同志社大学人文科学研究所第19期研究会第４研究会、科学研究費助成事業基盤研究(Ｃ)課題番号16K00469「古典籍の保存・継承のための画像・テキストデータベースの構築と日本文化の歴史的研究」夏の研究集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮崎裕子
２．発表標題 『石清水物語』第三系統伝本の祖本について―新潟大学佐野文庫蔵本と静嘉堂文庫蔵本との比較―
３．学会等名 同志社大学人文科学研究所第18期研究会（京都と文化）第17研究会・科学　　研究費助成事業基盤研究（Ｃ）「伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究」夏の研究集会
４．発表年 2015年

１．発表者名 宮崎裕子
２．発表標題 『石清水物語』第三系統伝本の成立について
３．学会等名 第42回古典研究会
４．発表年 2015年

１．発表者名 宮崎裕子
２．発表標題 『石清水物語』第三系統伝本の祖本について
３．学会等名 科学研究費助成事業基盤研究（C）伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究夏の研究集会
４．発表年 2014年

〔図書〕　計1件

１．著者名 宮崎裕子	４．発行年 2020年
２．出版社 新典社	５．総ページ数 683
３．書名 校本石清水物語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考